

事業所名

療育支援室 せいかエデュケアルーム

## 5領域に基づいた支援プログラム

作成日

2025年

3月

20日

法人（事業所）理念		将来幸せになる子・伸びていく子をそだてる					
支援方針		事業所は、利用者が日常生活における基本的動作及び知識技能を習得し、集団生活に適応することができるよう、利用者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて適切かつ効果的な指導及び訓練を行うものとします。					
営業時間		9時	0分	18時	0分	送迎実施の有無	あり
		支援内容					
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を提案し、実践をしていく。</li> <li>子どもの発達段階を把握し、話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援をしていく。</li> <li>集団療育や個別療育の中で同室で過ごす友だちとの関わりから、個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。</li> <li>子どもの発達段階に応じてコミュニケーション手段（指差し、身振り、アイコンタクト等）を選び、環境の理解と意思の伝達ができるように環境や関わり方を調整していき、支援を進めていく。</li> <li>個々の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。</li> <li>環境の理解と意思の伝達が円滑にできるように、各種の文字・記号・絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択し、活用していく。</li> <li>手話、点字、音声、文字、触覚、平易な表現等による多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるように支援する。</li> </ul>					
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業療法士がそれぞれの子どもの運動機能を把握し、日常生活に必要となる基本的な動作や姿勢保持等に関する支援内容を計画し、支援を行う。活動時間によっては、保育園内の遊戯室を利用し、運動機能を高めることを目指す。</li> <li>姿勢の保持や運動・動作がスムーズに行うことが難しい場合は、姿勢を保持するために壁や椅子、指導員が支える等を行い、補助的な手段を工夫してできるように支援をする。</li> <li>視覚、聴覚、触覚、嗅覚に加えて固有受容覚、前庭感覚を十分に活用できるような遊び（トランポリン、感触遊び等）を通して支援する。</li> <li>障害の程度や発達の進度に応じて、保有している感覚器官で情報収集をし、状況を理解するために眼鏡等の補助機器を活用したり、他の感覚や機器によって代行ができるように支援する。</li> <li>感覚の特性（感覚過敏・鈍麻）を理解し、感覚の偏りに対して環境調整を行う。</li> </ul>					
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促すため、運動遊びや制作活動等に取り組んでいく。</li> <li>専門職（公認心理師など）が環境から情報を取得し、その中から必要なメッセージを選び、行動につなげるという一連の認知過程を把握し、子どもの特性に合った環境調整ならびに関わり方を支援する。</li> <li>物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように視覚的情報（イラスト、絵カード、時計等）を活用したり、指先遊び（型はめ等）に取り組んだりするといった支援を行う。</li> <li>子どもの発達段階に応じた形の大きさ、色の違い、数量、重さ等を習得するために、遊び（入れ子、お絵描き、制作活動等）を通して支援を行う。</li> <li>専門職（公認心理師など）が一人一人の子どもの認知特性を把握し、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう環境調整や支援者の関わり方を提案していく。また、認知の偏り等の個々の特性を保護者様とも共有し、こだわりや偏食等に対する家庭での具体的な支援を行う。</li> <li>感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生じる行動障害に対して、事前に環境調整を実施する等の予防策を講じ、適切行動の獲得に向けた対応及び支援を行う。</li> </ul>					
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達障害の子どもなど、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。</li> <li>環境の理解と意思の伝達が円滑にできるように、各種の文字・記号・絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択し、活用していく。</li> <li>手話、点字、音声、文字、触覚、平易な表現等による多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるように支援する。</li> </ul>					
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発達段階に応じて感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びを実施し、そこから次の発達段階である見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びをし、他者との関わりが生まれる中で徐々に社会性の発達を支援する。</li> <li>発達段階に応じて周囲の子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びを支援者や相手との遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。</li> <li>公認心理師がそれぞれの子どもを把握し、大人を介在して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるようになるための支援を実践していく。</li> <li>子どもの発達段階や特性に応じた環境調整や関わり方を提案し、子ども自らが自発的に集団に参加し、手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援していく。</li> </ul>					

<p>家族支援</p>	<p>お子さまの成長を支えるために、家庭と連携しながら保護者の安心をサポートします。専門スタッフが個別相談やカウンセリングを行い、発達や子育ての悩みに対応します。また、お子さまの発達状況に応じた具体的な関わり方をアドバイスし、家庭での支援方法を共有します。</p>	<p>移行支援</p>	<p>お子さまがスムーズに次の環境へ移行できるよう、発達状況や得意なことを把握し、個別に適切な支援計画を立て、生活スキルや適応力を育むトレーニングを実施します。また、進学・進級に向けた情報提供や不安解消を目的とした保護者向けの説明会・勉強会を開催し、さらに保育園・幼稚園・小学校との連携を強化して、円滑な移行を支援します。</p>
<p>地域支援・地域連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援事業所や障害福祉サービス事業所との連携をします。</li> <li>・併行利用先や学校との情報共有を行います。</li> </ul>	<p>職員の質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回必ず法人の職員研修に参加しています。</li> <li>・外部研修会への参加をしています。</li> <li>・毎週必ず療育会議を開催し、それぞれの立場での専門的知識をシェアする時間を設けています。</li> </ul>
<p>主な行事等</p>	<p>毎月必ず避難訓練（火災・地震・不審者・風水害）を実施しています。</p>		